

# 日本道德教育方法学会第20回研究発表大会 プログラム

期日：平成26年6月14日（土）、15日（日）

会場：岡山大学教育学部講義棟

大会事務局：〒700-8530 岡山市北区津島中3丁目1-1

岡山大学教育学部 渡邊満研究室

後援：岡山県教育委員会・岡山市教育委員会

大会参加費 2,000円 ・会員、非会員とも。当日、受付（講義棟玄関ホール）にて徴収します。  
懇親会費 5,000円 ・懇親会は会員、非会員を問わず参加できます。  
(希望者のみ)

※ 岡山大学は、本年4月1日より全学敷地内禁煙となっておりますので、ご協力をお願いします。

## 【第1日】6月14日（土）

岡山大学教育学部附属小学校教育実践発表会

◇受付 8時30分～9時00分

◇公開授業研究テーマ：シティズンシップ教育の視点に立った道德の時間～読み物資料以外の資料活用～

◇公開授業① 9時00分～9時45分 2年は組 太田晶子 教諭

◇公開授業② 10時00分～10時45分 5年ろ組 尾崎正美 教諭

◇研究協議会 11時00分～12時30分

日本道德教育方法学会第20回研究発表大会

11:30

12:30 13:30

15:25 15:40

18:00 18:30

20:30

理事会 (第2会議室)	受付	自由課題研究発表 分科会Ⅰ～分科会Ⅳ	シンポジウム (5202室)	懇親会(岡山大学生協 ピーチユニオン4階)
----------------	----	-----------------------	-------------------	--------------------------

会員控室 (5207室)

理事会 11時30分～13時30分 (第2会議室)

受付 12時30分～ (講義棟玄関ホール)

自由課題研究発表 (発表25分・質疑30分)

分科会Ⅰ (5101講義室) 司会：澤田 浩一 (文部科学省・国立教育政策研究所)

13:30～14:25 ① 道元の思想に基づく道德資料の作成と考察

岩瀬 真寿美 (名古屋産業大学)

14:30～15:25 ② 実存論的教育観を基底とする道德授業をめざす教材の構成原理

馬場 勝 (兵庫県立教育研修所)

分科会Ⅱ (5102講義室) 司会：上菌 恒太郎 (長崎総合科学大学)

13:30～14:25 ① 平和教育に関する一考察—記憶継承という観点から—

古波蔵 香 (大阪大学大学院【院】)

14:30～15:25 ② 平和学習におけるジレンマ教材の可能性—共感と対話に注目して—

伊藤 博美 (名古屋経済大学)

分科会Ⅲ (5202講義室) 司会：林 泰成 (上越教育大学)

13:30～14:25 ① 道德特設の経緯に関する研究

高橋 潤子 (福岡大学大学院【院】)

14:30～15:25 ② 道德の時間における問題解決学習再考

西野 真由美 (国立教育政策研究所)

分科会Ⅳ (5208 講義室) 司会：小川 哲哉 (茨城大学)

13:30～14:25 ① 自己利得的な認知バイアスを統制する道徳授業—人間行動の自動性の視点から—  
鎌水 浩 (東京成徳大学【非】/弘前大学大学院【院】)

14:30～15:25 ② ホモ・モーベンスの実践道徳  
大庭 茂美 (九州女子短期大学)

シンポジウム 15時40分～18時00分 (5202室)

### テーマ：シティズンシップ教育から道徳教育は何を学ぶか

#### 企画趣旨

シティズンシップ教育 (citizenship education) は今日、学校教育における新たなカリキュラムの取り組みとして世界的な規模で注目を集めている。シティズンシップ教育とは、シティズン (市民) やシティズンシップ (市民意識・市民性) を育てる教育を意味しており、社会の構成員として積極的に社会にかかわり、社会をよりよくするために合理的・批判的に判断できる市民の育成をめざすものであり、子どもたちに民主主義社会に参加するための知識やスキル、考え方などを育てるものである。イギリスでは教科として必修化されており、日本でも、お茶の水女子大学附属小学校での「市民」や、東京都品川区の「市民科」といった取り組みがなされている。

シティズンシップ教育と道徳教育との密接なつながりは、教育基本法と道徳教育との関連から理解することができる。教育基本法では、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない」(第1条)と宣言されている。そして、道徳教育の目標は教育基本法に定められた教育の根本精神に基づくとされる。つまり、この教育の根本精神において、シティズンシップ教育と道徳教育はめざす頂を共有しているといえるのである。また、主体性や社会正義を重視するシティズンシップ教育には、いじめをうまない学校づくり、いじめを許さない子どもの人格形成といったことも期待されており、シティズンシップ教育と道徳教育が連携していじめ問題へ対処していくことも求められているといえるだろう。

もちろん、シティズンシップ教育と道徳教育の間には興味深い違いが存在していることも事実である。たとえば、「市民」を育てるということと「国民」を育てるということの間には、単純な言葉の違いを超えた意味があるのではないだろうか。また、シティズンシップ教育では、市民性や公共性、民主主義といった重要な概念でさえ、「すでにあるもの」としてだけでなく「つくりだすもの」として捉える観点が決定的に重要であるという。

日頃から道徳教育について熱心に取り組んでいる我々は、道徳教育と多くの部分を共有しながらも、道徳教育の外側で展開しているシティズンシップ教育の取り組みから、道徳教育をさらに「進化」させるための有意義な示唆を得ることができるのではないだろうか。道徳の教科化が議論されているこの時代に、シティズンシップ教育から示唆を得て、我々の道徳教育の枠組みを様々なレベルで—教育課程上の位置づけ/目標/内容/道徳の時間の教材や指導方法のレベル等々で—拡張してみよう。それが、本シンポジウムのねらいである。

#### ◇シンポジスト

【シティズンシップ教育の立場から】

水山 光春 (京都教育大学)

【道徳教育の立場から】

渡邊 満 (岡山大学大学院)

#### ◇司会

上地 完治 (琉球大学)

懇親会 18時30分～20時30分 (岡山大学生協ピーチユニオン4階)

【第2日】6月15日(日)

8:30 9:00 11:55 13:00 13:45 14:00 16:00

受付	自由課題研究発表 分科会V～分科会X	＜昼食＞ 評議員会 (第2会議室)	会員総会 (5202室)	課題研究 (5202室)
----	-----------------------	-------------------------	-----------------	-----------------

会員控室(5207室)

受付 8時30分～(講義棟玄関ホール)

自由課題研究発表(発表25分・質疑30分)

分科会V(5101講義室) 司会:金光 靖樹(大阪教育大学)

- 9:00～9:55 ①「道徳の時間」の「補充、深化、統合」に関する研究—小学校教師の意識に着目して—  
伊橋 諒(名古屋市立天白中学校)
- 10:00～10:55 ②聴き合い、話し合う場を設けた指導過程—小学1年生における試行実践とその考察—  
名塚 美喜(愛知県美浜町立野間小学校)
- 11:00～11:55 ③校長による、道徳の時間を実施・充実させるための取り組み  
服部 敬一(大阪市立豊仁小学校)

分科会VI(5102講義室) 司会:田沼 茂紀(國學院大學)

- 9:00～9:55 ①未来からの振り返りによる自己肯定感  
岡崎 耕(長崎大学大学院【院】)  
上菌 恒太郎(長崎総合科学大学)
- 10:00～10:55 ②民話を活かした日・台共通道徳学習指導案による「思いやり」の授業  
眞榮城 善之介(琉球大学教育学部附属小学校)  
上菌 恒太郎(長崎総合科学大学)  
上地 完治(琉球大学)
- 11:00～11:55 ③「思いやり・親切」を扱う読み物資料に関する一考察  
植田 和也(香川大学)  
七條 正典(香川大学)

分科会VII(5202講義室) 司会:白木 みどり(金沢工業大学)

- 9:00～9:55 ①討論を中核とする探究的道徳学習の具現化と「論理的対話力」という課題の克服—  
具体的方策としての「論理力向上ワークショップ」の必要性・有効性—  
岡本 義裕(神戸市外国語大学)  
渡邊 満(岡山大学大学院)
- 10:00～10:55 ②討論活動を通じた道徳教育の可能性  
小川 哲哉(茨城大学)  
石井 純一(茨城県教育庁)
- 11:00～11:55 ③教職課程における「道徳教育の研究」の方法—アクティヴ・ラーニングを意識して構成—  
西村 日出男(大阪教育大学【非】)

分科会VIII(5206講義室) 司会:柴原 弘志(京都市教育委員会)

- 9:00～9:55 ①叱りを受け止める力を高める道徳授業の実践と効果  
京江 光之(岡山県備前市立吉永中学校)
- 10:00～10:55 ②道徳の評価に関する実証的研究  
富岡 栄(群馬県高崎市立第一中学校)
- 11:00～11:55 ③言語活動の充実を図った高校道徳の授業方法に関する考察  
長島 利行(茨城県立水戸南高等学校)  
林 泰成(上越教育大学)

分科会IX (5208 講義室) 司会：鈴木 由美子 (広島大学)

- 9:00～ 9:55 ① 生きることを喜び、生き方の自覚を深める児童の育成—小2 自分史作りを中心とした「大きくなったわたしたち」の実践を通して—  
鈴木 保宏 (愛知県西尾市立一色東部小学校)
- 10:00～10:55 ② 自分とのかかわりでよりよい生き方について考えを深める道徳の授業作り～魅力的な教材の活用～  
尾崎 正美 (岡山大学教育学部附属小学校)
- 11:00～11:55 ③ 道徳授業論 価値の自覚を深める指導過程と参加意欲を高める場づくり～「特別の教科道徳」を見つめて～  
柴田 八重子 (愛知淑徳大学【非】)

分科会X (5307 講義室) 司会：谷田 増幸 (兵庫教育大学)

- 9:00～ 9:55 ① 公共性を考える道徳教育実践  
渡邊 英一 (茨城県教育庁)  
渡邊 哲郎 (茨城県立緑岡高等学校)
- 10:00～10:55 ② SNS 時代の情報モラル教育に関する考察  
時津 啓 (広島文化学園大学)
- ③ 社会的リテラシー育成をめざした道徳授業における話し合い活動の在り方
- 11:00～11:55 杉中 康平 (四天王寺大学)

評議員会 12時00分～13時00分 (第2会議室)

会員総会 13時00分～13時45分 (5202 室)

課題研究 14時00分～16時00分 (5202 室)

### テーマ：教科化時代の道徳授業をどう進めるか

#### 企画趣旨

道徳の時間については、文部科学省の「道徳教育の充実に関する懇談会」が先の12月に報告を提出し、その「特別の教科」としての改善・充実の方向が示された。「心のノート」の全面改訂による「私たちの道徳」も各学校において4月よりその活用が始まっている。今後、秋には中央教育審議会での答申が出され、その後、学習指導要領の改訂へと進むものと見込まれている。いわば、戦後型道徳教育の最大の転換点を迎えることになる。その中で、道徳教育の要の役割を担う道徳の時間はその理念や実施スタイルの一層確かな方向付けが必要となる。

現在の道徳教育の実施上の大きな課題は、教師の道徳の時間の受け止めの忌避傾向や授業の硬直化傾向を打破することである。教師がプラス思考で授業に取り組むのでなければ、子どもの中に生き方のプラス思考は生まれない。そのためにも、私たちは教師相互の切磋琢磨による道徳授業の魅力ある活性化を目指さなくてはならない。上記の報告で最も紙幅をとって力説されているのも「道徳教育の指導方法」の改善に関わる部分であり、例えば、議論・討論する多角的・批判的な学習、生命倫理や環境問題などの学習、コミュニケーションを深める活動など、指導方法の例示が多岐にわたっている。それだけ、道徳授業の在り方に強い危機感があるのだといえる。

そこで、本課題研究では、最も強い関心事項である道徳の教科化問題に正面から向き合い、以下の問題意識などを軸として、現状の分析を踏まえた今後への具体策にも踏み込んで議論し合い、参会された皆さんと共に生産的な知見を得たいと考える。

- 道徳の教科化に向けて克服すべき課題は何か
- 「特別の教科」としての道徳授業にはどんなことが求められるのか
- 「私たちの道徳」(新「心のノート」)はどのように生かせるのか

#### ◇パネリスト (50音順)

柴原弘志 (京都市教育委員会)  
田沼茂紀 (國學院大學)  
服部敬一 (大阪市立豊仁小学校)  
宮里智恵 (くらしき作陽大学)

#### ◇コーディネーター

永田繁雄 (東京学芸大学)